

アートサイト岩室温泉 2003

現代の最新アートと三百年の歴史ある湯の街「いわむろ」が融合して行われたこの芸術祭。力作揃いの展示作品を大勢の観光客が楽しみました。

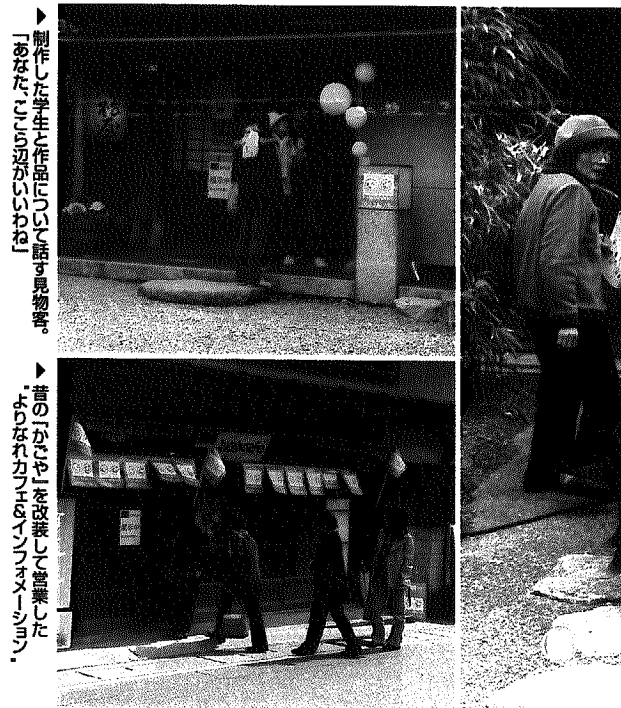
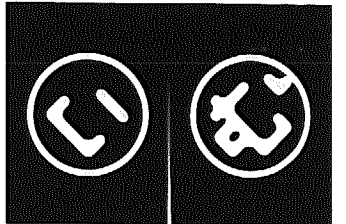
歴史ある温泉郷を斬新な芸術で彩る企画「アートサイト岩室温泉2003」が、先月8日から16日にかけて行われ、期間中は大勢の観光客が、武蔵野美術大学の学生さんの作品を一目見よ

▲通行人の目を引く巨大な鉄のオブジェ。旅館の純和風な軒先になぜか見事にマッチ。

うと、岩室温泉を訪れました。観光客はまず「よりなれカフェ&インフォメーション」で会場案内図を入手。その地図を片手に温泉街を散策しながら、15か所の旅館などに展示された絵画や立体作品、映像など約80点の作品を楽しみました。

期間中は常時20人ほどの美大生が岩室温泉に常駐。作品の管理や模様替え、さらには期間中にも新たな作品制作を行なうなど、積極的に運営活動を行なってきました。どの作品も独特の個性を放ちながら、温泉街の伝統的な雰囲気と違和感なく溶け込むさまはまさに圧巻。21世紀の新しい観光づくりのヒントにもつながったようです。

武蔵野美術大学の長尾重武学長は「学生が自主的に協議しながら、人と人が連携しあい、学生のみならず若い力で進んでいったプロセスは素晴らしいこと。こ



▶制作した学生作品について語る見物客。
「あなた、この辺がいわね」
▶昔の「かきや」を改装して営業した。よりなれカフェ&インフォメーション。

の場を与えてくださった温泉旅館のみなさんに感謝します」とコメント。

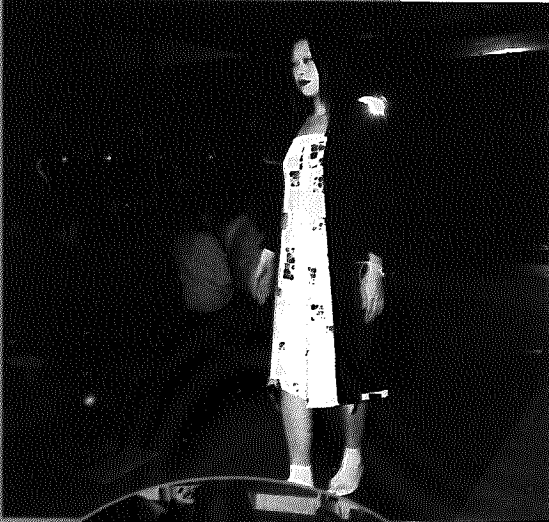
イベント実行委員の建築学科・三木崇史さんは「調査や話し合いのため新潟に何度も足を運び、村の人たちと接しているうちに、徐々に距離が縮まっていくのを感じました。頑張った良かったです」と感想を話しました。

16日の最終日には、高志の宿「高島屋」でこのイベントの最後を飾る華麗なファッションショーが開催され、1部2部あわせて約300

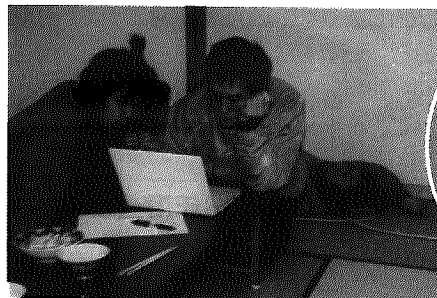
人の観客が詰めかけました。庄屋敷の古風漂う旅館の空間に、現代から近未来までの服飾デザインが見事にシンクロ。幻想的な雰囲気はバックに、約30分のショーが行われました。作品の素材に、温泉旅館で使われなくなったゆかたの古着や着物などが利用され、斬新な作品に生まれ変わったり、男性モデルが身に着けた奇抜な衣装など、終始驚きの連続。学生さんや、芸妓さんなどで構成された素人モデルさんばかりでしたが、デザイナーの力作を見事に着こなし、堂々としたウォーキングで観客を魅了していました。

▲昼間見るとただの木枝の境(写真・左)。夜になると大変身。驚きの影絵アート(写真・右)

▼最新のファッションに身を包むモデルさんが次から次へと。素材と感性が見事に融合。



▲寝食を忘れてファッションショーの準備。徹夜続きにもかかわらず学生さんたちの笑顔と輝きの輝きには影響。この雑然とした空間から現代の最新ファッションが生まれた。



▲合宿生活の朝ご飯タイム。時間を忘れて制作に没頭する。まだ寝る人。学生さんたちのパワーが感じられたひととき。



▲武蔵野美術大学の長尾重武学長さん。



▲作品のセッティング風景。展示期間中も、どんどんスタイルが変化していく。

武蔵野美術大学

東京都小平市にキャンパスを有し、美術大学の中心的な存在として、常に日本の芸術教育全般をリードしてきた武蔵野美術大学。特徴ある各学科の授業ばかりではなく、訪問教授による特別授業、あるいは企業や社会、内外の教育機関との交流によって、大きなひろがりを持ちながら教育、研究活動を行っています。